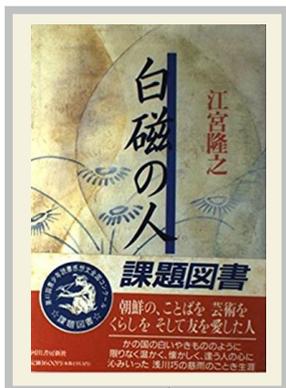


# としょかん南アルプス



南アルプス市立図書館通信 No.39 2018年6月1日発行 <http://m-alps-lib.e-tosho.jp/>

## 作家 江宮隆之 えみや たかゆき



朝鮮のことは、芸術を、くらしを、  
そして友を愛した人：浅川巧。かの国  
の白いやきもののように限りなく温  
かく、懐しく、逢う人の心に沁みいっ  
た浅川の慈雨のごとき生涯。朝鮮に愛  
された日本人の生き方を探る一冊。  
(河出書房新社)

人生で最初の読書は、祖父がつくった峡南幼稚園（南巨摩郡富士川町青柳町）での『聖書』でした。キリスト教系の幼稚園で、毎週「日曜学校」がありました。そこでは、聖書を子ども用にやさしくした物語を読みました（牧師さんが聖書を読んでくれたことも）。

次の読書体験は、やはり幼稚園時代で「カバヤ文庫」という世界名作選のダイジェスト版です。関西のキャラメルメーカーが、飴一箱についている応募券を集めると、好きな文庫を送ってくれました。この「カバヤ文庫」で、子ども向けの世界名作をたくさん読みました。キャラメルが余って困ったほどです。

私はいま、小説や歴史読み物などを書いています。今年の冬は嬉しいことがありました。いまから24年前に書いた小説『白磁の人』（数年前には映画にもなりましたが）を読み、昨年度の「青少年読書感想文全国コンクール・高等学校の部」に、感想文「白磁の人になる」を応募してくれた東京・田園調布学園高等部1年の儘田怜実さんが、内閣総理大臣賞を受賞するという知らせが、突然、事務局と毎日新聞社（主催）から届いたのです。

この本は1996年にこのコンクールの課題図書に選ばれましたが、まさかこんなに時間が経ってからも読まれ続け、しかもその読書感想文が「最高賞」を取ってくれるとは、という驚きでした。この瞬間、読書の可能性と（自分で言うのも憚られますが）良書は残るものである、という喜びと自信を感じることができました。作家にとって、どんな賞を貰うよりも、光栄と歓喜に満ちた瞬間でした。

「読書」はどこでもできます。どんな古い本でも図書館で読めます。素晴らしい読書体験をぜひ、あなたも。



<講演会の前に あやめホールにて>

私の  
読書  
歴

第5回

# 白根桃源図書館

## 移転オープン!

7  
月初旬

—新しく生まれ変わる図書館にご期待ください—



完成イメージ図

白根桃源図書館は、旧白根町立図書館として平成2年に開館して以来、読書や情報の拠点として地域のみなさまに親しまれてきました。

合併後は、市立図書館としてサービスを拡大してきましたが、施設の老朽化が進んだことから、このほど生涯学習センターと図書館を併設した施設として、現図書館の南側に新築オープンします。

新しい図書館は、西側が一般スペース、東側が児童スペースに分かれています。一般スペース奥の西窓際には照明付きの閲覧席が8席あり、調査研究や学習に利用できるようになっています。また南窓際には6人掛けの閲覧机が3つあり、外の景色を眺めながら自由に読書を楽しむことができます。

児童コーナーには児童用の閲覧机やスツールなどを置き、子どもたちが気軽に本を手にとれるようにしています。また北側中央には「おはなしコーナー」を設け、親子で絵本を楽しんだり、おはなし会に参加したりできるようになっています。



<図書館入口付近>

ただいま  
建設  
中



<玄関付近>

また、併設されている研修室を利用して、夏休み子ども向け事業や、一般向けの朗読会なども開催する予定です。

明るく利用しやすい図書館になるように準備を進めていますので、7月初旬のオープンを楽しみにお待ちください。

子どもたちのために 本を寄贈していただきました

「くしがたふるさとアカデミー二期生」のみなさまから、未来を担う子どもたちのために、絵本76冊を寄贈していただきました。

すべて『本! こんにちは』(\*1ブックスタート事業おすすめ本冊子)と『本、みつけた!』(\*2セカンドブック事業おすすめ本冊子)で紹介している本です。

中央図書館の「おはなしのへや」と「キッズコーナー」に展示してありますので、ぜひご覧いただき、本選びの参考にしてください。

南アルプス市

### \*1 ブックスタート事業

赤ちゃんと保護者が絵本を介してふれあいを深めるために、4か月健診の際、本をプレゼントしています

### \*2 セカンドブック事業

小学校1年生に、年齢にあった本をプレゼントしています



<寄贈いただいた本>